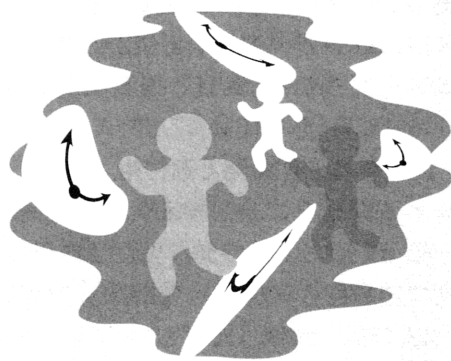


第1章 IAAL 大学図書館業務実務能力 認定試験の設計思想と概要



IAAL 大学図書館業務実務能力認定試験の設計思想と概要

大庭 一郎 (筑波大学)

はじめに

特定非営利活動法人 (NPO 法人) 大学図書館支援機構 (Institute for Assistance of Academic Libraries : 略称 IAAL (アイアール)) は、2007年6月26日、東京都の認証を受けて設立されました¹⁾。IAAL の目的は、「大学図書館及びその利用者に対して、研修及び業務支援に関する事業を行い、大学図書館の継続的発展を通して学術研究教育に寄与すること」です。IAAL は、特定非営利活動の事業として、(1)情報リテラシー教育支援事業、(2)大学図書館職員研修事業、(3)大学図書館業務支援事業、(4)大学図書館運営に係る助言または援助の事業、を行ってきました。(2)の大学図書館職員研修事業では、「①講習会の開催」と「②資格の認定、基準の作成及び公表」の実施が規定されています²⁾³⁾。

IAAL は、事業活動の一環として、IAAL 大学図書館業務実務能力認定試験 (以下、IAAL 認定試験と略す) の企画検討を行い、2009年5月17日 (日) に、IAAL 認定試験「総合目録－図書初級」第1回を実施しました。筆者は、IAAL 認定試験の準備段階から実施までの検討に参加し、問題作成の基本方針の策定等に携わる機会を得ました。そこで、第1章では、IAAL 認定試験の実施の背景、IAAL 認定試験の設計思想、IAAL 認定試験問題集の活用方法、等について記します。

1. IAAL 認定試験の実施の背景

1. 1 大学図書館業務と担当職員の変化

1989(平成元)年度以降、日本の大学図書館は、サービス提供の量的拡張が進行する中で、経営管理に必要な資源の縮小も進みました。そのような状況の中で、大学図書館の専任職員が削減され、それを埋め合わせる形で非専任職員が増加してきました⁴⁾。2011年5月1日現在で実施された日本図書館協会の調査によれば、日本の4年制大学の大学図書館は1,404館(本館756, 分館・分室648)あり、その中の調査回答館1,351館には、専従職員5,007人、兼務職員1,209人、非常勤職員2,673人、臨時職員1,806人、派遣職員等2,792人の計13,487人が働いています⁵⁾。専従職員と兼務職員の合計を専任職員ととらえるならば、専任職員6,216人(46.1%)、非専任職員7,271人(53.9%)になります。

2007年に、佐藤翔と逸村裕 (筑波大学) は、日本の4年制大学図書館における外部委託に関する調査を実施しました(対象館704, 有効回答358 (50.9%)、国公私の内訳は国立70 (80.5%)、公立44 (58.7%)、私立243 (44.9%)、放送大学1 (100%))。この調査によって、大学図書館の41種類の委託業務内容は、専門性の低い整理・閲覧関連業務(カウンター (42.1%)、装備 (36.7%)、コピー・カタログギング (34.7%)) から、専門性の高い整理関連業務(分類作業 (27.4%)、オリジナル・カタログギング (26.9%))、専門性の高い閲覧業

務（DB 検索操作の援助（24.1%）、目録使用・図書選択等の援助（23.8%）、レファレンス・サービス（19.5%））まで、広範囲にわたることが示されました（数値は委託率⁶⁾）。

大学図書館業務の遂行には、担当職員が個々の業務に必要な暗黙知（主観的で言語化・形態化困難な知識）と形式知（言語または形態に結晶された客観的な知識）を、十分に備えている必要があります⁷⁾。かつての大学図書館は、専任職員が多く、各係（各業務）に一定数の職員が配属されていたため、先輩職員から後輩・新人職員に対して、業務上の暗黙知と形式知を伝達できる環境がある程度整っていました。しかし、近年の大学図書館業務は、職員削減で各業務の担当職員が減少する中で、専任職員だけでなく、多様な雇用形態の職員によって支えられています。雇用形態の異なる職員の間では、業務上の暗黙知と形式知の伝達が困難になるだけでなく、職員研修の機会にも大きな差が生じます。専任職員を中心に運営されている大学図書館の場合でも、各係（各業務）の定員減によって、担当業務に必要な暗黙知と形式知が伝達・継承されにくくなっています。現代の大学図書館では、図書館業務の担当職員が、日々の業務に必要な実務能力を維持・発展させたり、各自の業務に必要な研修等に参加して実務能力を継続的に高めていくことが、従来よりも困難になってきています。このような状況を受けて、2008年4月、IAALは、IAAL 認定試験の実現に向けた企画検討を開始しました。

1. 2 日本の図書館界における専門職員資格試験の動向

日本の図書館界では、1980年代以降、専門司書資格認定試験の提案や館種別専門職員資格試験の検討が行われてきました⁸⁾⁹⁾。さらに、2006年3月発表の『情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究』（通称、LIPER 報告¹⁰⁾）を踏まえて、2007年度から、日本図書館情報学会は「図書館情報学検定試験」の準備試験を実施しています¹¹⁾。このような状況の中で、1999年3月に、葉袋秀樹（図書館情報大学）が『図書館雑誌』に発表した「司書の専門的知識の自己評価試験」の提案は、司書の専門的知識の向上に役立つ実現可能な方法として、注目すべき内容を含んでいました。この試験の内容と効果（3点）は、以下の通りです¹²⁾。

- ・公立図書館の司書に必要な専門的知識について、五肢択一形式の試験問題を数百題以上作成し、回答とともに問題集にまとめて、冊子形態で刊行する。正答率の目標や基準を示しておく。
- ・公立図書館の司書は、それを購入し、自分で問題を解き、回答と照らし合わせて採点する。
- ①司書は自分の専門的知識がどのようなレベルにあるか、どの分野が弱いかを自己評価することができる。
- ②自己評価によって、司書の自己学習の動機が高まる。
- ③問題の作成を通じて、司書に必要な不可欠な専門的知識の内容が明確になる。

葉袋の提案は、公立図書館司書の専門的知識の向上を目指した提案でしたが、IAAL が、大学図書館業務における実務能力認定試験のあり方を検討する際に、示唆に富む内容を含んでいました。

2. IAAL 認定試験の設計思想

2. 1 IAAL 認定試験の検討開始

2008年4月、IAAL は、IAAL 認定試験の実現に向けた企画検討を開始しました。

IAAL 認定試験は、大学図書館で働く専任職員と非専任職員に、大学図書館業務の実務能力に関する自己研鑽と継続学習の目標・機会を提供することを目的として、企画されました。現代の大学図書館業務には、多様な業務が含まれており、個々の業務の担当職員に必要な専門的知識と経験は異なっています。大学図書館業務の実務能力を試験で問う場合には、多くの大学図書館で標準的に実施されている業務を対象として、試験問題を作成する必要があります。そこで、IAAL 認定試験では、日本の大学図書館で標準的に活用されている書誌ユーティリティを対象とした試験問題の開発に、最初に着手しました。

国立情報学研究所 (NII) の目録所在情報サービス (NACSIS-CAT/ILL) は、日本の大学図書館を結ぶ書誌ユーティリティです。NACSIS-CAT/ILL では、参加館が所蔵資料の書誌情報と所在情報をオンラインでデータベース化し、その所在情報データベースを利用して、各館の未所蔵資料を相互に提供する図書館間相互協力が行われています。NACSIS-CAT/ILL は、大学図書館の業務システムをサポートし、日本の学術情報流通基盤を支えるサービスシステムとして成長してきました。しかし、近年、NACSIS-CAT/ILL の問題点として、①データベースの品質を共同維持するという意識の薄れ、②担当者の削減とスキルの低下、③業務の低コストでの外注化による図書目録データの品質低下 (例：重複書誌レコードの頻発)、④雑誌所蔵データ未更新による雑誌目録データの品質低下、等が指摘されるようになりました¹³⁾。NACSIS-CAT/ILL を取り巻く問題状況を改善するひとつの手立てとして、IAAL 認定試験を通じて、NACSIS-CAT/ILL に携わる専任職員と非専任職員の自己研鑽と継続学習の目標・機会を提供することは、大学図書館業務の基盤を支える上で有効であると考えられました。そこで、IAAL は、2008年4月から2009年4月にかけて、IAAL 認定試験「総合目録－図書初級」の実施の方向性を検討し、試験問題の開発に取り組みました。

2. 2 IAAL 認定試験の作成

(1) IAAL 認定試験の試験方法の選定

IAAL 認定試験は、大学図書館で働く専任職員と非専任職員に、大学図書館業務の実務能力に関する自己研鑽と継続学習の目標・機会を提供することを目的としています。

試験問題を作成する場合、試験の目的(目標)に応じて、多様な出題形式が選択できます。一般的な試験方式として、筆記試験、面接試験、実技試験、適性試験、等があります。そして、筆記試験には、選択式試験 (補完式 (文章の空欄記入)、正誤式、組合せ式、多肢選択式 (択一式、複数選択式)) のほかに、論文式試験、その他の記述式試験、があります。例えば、人事院が、1985 (昭和60) 年から2003 (平成15) 年にかけて実施した国家公務員採用Ⅱ種試験「図書館学」では、第1次試験で教養試験 (多肢選択式)、専門試験 (多肢選択式)、専門試験 (記述式) を課し、第2次試験で人物試験を行いました¹⁴⁾。国Ⅱ (図書館学) は、「図

書館学」領域の多数の志願者の中から一定の人数（採用予定者数）を選抜するために、競争試験として実施されていました。しかし、IAAL 認定試験は、職員採用で用いられる競争試験とは異なり、IAAL 認定試験受験者が、個々の大学図書館業務に必要な実務能力について一定レベルに到達しているかどうか、を的確に判定できることが、重要なポイントになります。そこで、IAAL は、各種の試験方式を検討した上で、IAAL 認定試験「総合目録－図書初級」および「総合目録－雑誌初級」では、自動車の普通免許の学科試験の方式を採用することにしました。

道路交通法の第97条（運転免許試験の方法）は、免許の種類ごとに、自動車等の運転に必要な適性、技能、知識に関する運転免許試験を行うと規定しています¹⁵⁾。そして、道路交通法施行規則の第25条（学科試験）では、「自動車等の運転に必要な知識についての免許試験（以下「学科試験」という。）は、択一式又は正誤式の筆記試験により行うものとし、その合格基準は、90パーセント以上の成績であることとする」¹⁶⁾と規定しました。学科試験は、道路交通法の第108条の28（交通安全教育指針及び交通の方法に関する教則の作成）を踏まえて、国家公安委員会が作成した『交通の方法に関する教則』（略称、交通の教則）の内容から出題されています¹⁷⁾。例えば、1990年の学科試験（第一種運転免許の普通免許）では、正誤式の筆記試験が、出題問題数100問、試験時間50分、合格基準90パーセント以上（正解90問以上）で実施されていました。この学科試験では、「教習1 運転者の心得」から「教習29 悪条件下の運転など・運転者の社会的責任と安全運転」までの29教習が設定され、教習ごとに何問程度出題されるか基準が示されていました¹⁸⁾。現在の学科試験（第一種運転免許の普通免許）は、正誤式の筆記試験が、文章問題90問（各1点）とイラスト問題5問（各2点）、試験時間50分、合格基準90パーセント以上（90点以上）で実施されています¹⁹⁾。長信一（自動車運転免許研究所）は、現行の学科試験の出題傾向を分析し、9領域の出題率（自動車の運転の方法35%、歩行者と運転者に共通の心得12%、自動車を運転する前の心得11%、等）を示しています²⁰⁾。このように、運転免許試験の学科試験では、試験問題の出題枠組みが明確に定められ、出題枠組みの各領域から試験問題が満遍なく出題されるように設計されています。

正誤式の筆記試験は、普通免許の学科試験のように、短文の問題文を提示してそれが全体として正しいか（正）、誤りを含んでいるか（誤）を問うものです。正誤式の筆記試験の長所は、事実や知識についての記憶力や判断力を広範囲にわたって把握するのに適していることです。必要に応じて、マークシート方式の解答用紙を設計することもできます。一方、この試験方式の短所は、回答が正誤（○×）の2分法になるため、他の試験方式と比較した場合、推測・推量による正答の確率が高いことが挙げられます。正誤式の筆記試験には、長所・短所がありますが、普通免許の学科試験では、多数の問題（100題）を出題し、それらに短時間（50分）で回答させ、合格基準を高く設定（90%以上）しています。これによって、短時間に（1問当たり30秒で）、各問に対する瞬時の正確な判断を求め、推測・推量による回答を極力減らす工夫がなされています。

IAAL 認定試験「総合目録－図書初級」および「総合目録－雑誌初級」は、国立情報学研究所（NII）の目録所在情報サービス（NACSIS-CAT/ILL）を活用した図書館業務を行う際に、一定の実務能力に達しているかどうかを判定しようとしています。正誤式の出題方式

には、長所・短所がありますが、NACSIS-CAT/ILLを図書館業務で用いる際に必要な事実や知識についての記憶力・判断力を広範囲に問い、NACSIS-CAT/ILLを安定して活用・運用できるかどうか判定するには、最適であると考えました。そこで、IAAL認定試験「総合目録－図書初級」および「総合目録－雑誌初級」では、正誤式の筆記試験（マークシート方式）を採用し、出題問題数100問、試験時間50分、合格基準80パーセント以上（正解80問以上）で実施することにしました。IAAL認定試験における大学図書館業務の実務能力の判定方法については、各試験の合格点を設定し合否判定をするのか（合格点設定方式）、あるいは、TOEICやTOEFLのように点数（スコア）を提示するのか（点数提示方式）について、様々な議論がありました。最終的には、IAAL認定試験の受験者の自己研鑽と継続学習の目標を明確にするために、個々の図書館業務を4年以上経験した者が合格できる点数（80点）を定め、合格基準80パーセント以上（正解80問以上）で、合否判定をすることになりました。なお、IAAL認定試験の計画段階では、日本各地の大学図書館職員がIAAL認定試験を受験しやすいように、筆記試験をWebテストで実施することを検討しました。しかし、Webテストに必要な機器類の導入経費が高額であり、Webテスト実施時の厳密な本人確認に不安な点があることから、Webテストの実施を断念し、試験会場で筆記試験を行うことになりました。

(2) IAAL 認定試験の評価ポイント（評価指針）と出題領域

IAAL認定試験「総合目録－図書初級」および「総合目録－雑誌初級」を正誤式の筆記試験で作成する第一段階として、各試験の評価ポイント（評価指針）と出題領域を設定しました。2種類の試験の評価ポイント（評価指針）と出題領域は、以下の通りです²¹⁾。

◎「総合目録－図書初級」

[評価ポイント（評価指針）]

総合目録の概要、各レコードの特徴、検索の仕組みについて理解し、和洋図書の的確な検索と、結果の書誌同定の判断ができるかどうかを判定する。また目録規則の基礎的な知識を確認する。

[出題領域]

1. 総合目録の概要
2. 各レコードの特徴
3. 検索の仕組み
4. 書誌同定
5. 総合

◎「総合目録－雑誌初級」

[評価ポイント（評価指針）]

総合目録の概要、各レコードの特徴、検索の仕組みについて理解し、和洋雑誌の的確な検索と、結果の書誌同定の判断、正確な所蔵登録ができるかどうかを判定する。また目録規則の基礎的な知識を確認する。

[出題領域]

1. 総合目録の概要
2. 各レコードの特徴
3. 検索の仕組みと書誌の同定
4. 所蔵レコード記述法
5. 総合

次に、評価ポイント（評価指針）と出題領域を踏まえて、IAAL認定試験の出題枠組みを作成しました。一般に、各種の認定試験や検定試験が社会や関連領域（業界）で一定の評価

を得るには、①各回の問題作成方針（指針）が一貫性を保ち、②各回の問題のレベルと質が同一水準を維持し、③一度開始された試験が厳正かつ永続的に実施されること、が重要です。そして、①②を担保するには、試験の出題枠組みの設計が重要であり、試験の成否を決めることになります。そこで、IAALは、運転免許試験の学科試験を踏まえて、個々の大学図書館業務に対応した厳密な出題枠組みを作成しました。IAAL認定試験「総合目録－図書初級」および「総合目録－雑誌初級」の出題枠組みは、【資料1】として章末に掲載しました。

【資料1】の出題枠組みをご覧いただくことによって、IAAL認定試験の各領域内に、どのような範囲とテーマが設定され、出題されるのか（重視されているのか）把握できます。IAAL認定試験の学習ポイントを把握し、問題・解説を読む際に、【資料1】の出題枠組みを活用してください。

(3) IAAL 認定試験の出題範囲（出典）

IAAL認定試験「総合目録－図書初級」および「総合目録－雑誌初級」では、試験問題作成の出題範囲（出典）として、以下の資料が設定されています。

- ・『目録情報の基準』²²⁾
- ・『目録システム利用マニュアル』²³⁾
- ・『目録システムコーディングマニュアル』²⁴⁾
- ・『目録システム講習会テキスト 図書編』²⁵⁾（「総合目録－図書初級」用）
- ・『目録システム講習会テキスト 雑誌編』²⁶⁾（「総合目録－雑誌初級」用）

IAAL認定試験は、これらの出題範囲（出典）を踏まえて、NACSIS-CAT/ILLの業務に従事したことがある図書館職員が、試験問題の作成を行っています。IAAL認定試験「総合目録－図書初級」と「総合目録－雑誌初級」に関する出典・参考教材一覧は、【資料2】として章末に掲載してあります。

なお、この試験問題集には、「総合目録－図書初級」の第1回から第4回までの出題（合計400題）、および、「総合目録－雑誌初級」の第1回から第4回までの出題（合計400題）を踏まえて、それぞれ100題の試験問題を選定し、解説をしています。設問中で問う書誌レコードは、NACSIS-CATの入力基準に合致した、正しい記述がなされている書誌を想定しています。問題を解く際は、書誌レコードは正しい記述がなされているという前提で解答してください。設問中に提示した書誌レコードは、『目録システムコーディングマニュアル』（以下、コーディングマニュアルと略す）に準拠しています。

2. 3 IAAL 認定試験の運営・実施

(1) IAAL 認定試験の運営マニュアルの作成

各種の認定試験や検定試験が成功するには、良い試験問題を継続的に作成できる体制を整備するだけでなく、各試験が厳正かつ適切に実施される体制を整えることが、非常に重要です。特に、新しい認定試験や検定試験が、社会や関連領域（業界）で受容されるには、個々の試験が、厳密に実施されていることが担保されなければなりません。認定試験や検定試験の成否は、良問の継続的な作成と試験実施マニュアルの整備が、車の両輪として機能することにかかっています。

そこで、IAAL は、IAAL 認定試験を開始する際に、詳細な IAAL 認定試験運営マニュアルを整備しました。各試験会場は、IAAL 認定試験運営マニュアルに基づいて、試験会場の準備、受験者の受付、試験実施、試験会場の片付け、試験の事後処理、等を行っています。特に、受験者の本人確認は、受験申込み写真と本人確認書類（免許証、パスポート、等）を照合して、厳正な試験が担保できるように留意しています。IAAL 認定試験運営マニュアルによって、各試験会場は、全国一斉に同一条件で、厳正な試験を実施しています。

(2) IAAL 認定試験の実施

IAAL は、2009年5月17日(日)に、IAAL 認定試験「総合目録－図書初級」第1回を実施しました。IAAL 認定試験「総合目録－図書初級」第1回は、東京と名古屋の2会場で行い、受験者総数は216名（東京180名、名古屋36名）でした。この試験の平均点は79.9点、合格基準80パーセント以上（正解80問以上）を充たした合格者は112名（52%）でした。IAAL 認定試験では、試験改善のために、アンケートで受験者の目録業務経験年数等を質問しています。「総合目録－図書初級」第1回では、NACSIS-CAT の経験年数が4年以上の受験者（99名）の中で、78人（79%）が合格しています²⁷⁾。

IAAL 認定試験は、職員採用で実施される競争試験のように、受験者を選抜し落とすための試験ではありません。しかし、IAAL 認定試験受験者が、個々の大学図書館業務に必要な実務能力について一定レベルに到達しているかどうか、を判定するため、一定レベルに達していない場合は不合格になります。従来は、IAAL 認定試験問題集が刊行されていなかったため、試験勉強に取り組みにくい状況がありました。今後は、この試験問題集を踏まえた試験勉強が可能になりますので、IAAL 認定試験の合格者は増加すると思われます。

IAAL 認定試験の実施結果は、各受験者に、試験の可否に関わらず各領域の得点を通知しています。そして、合格者には、運転免許証のような写真入りカード形態の合格証を発行しています²⁸⁾。

2009年5月以降、IAAL は、年2回（春季（5月か6月上旬）と秋季（11月））、IAAL 認定試験を実施してきました。2010年5月16日(日)には「総合目録－雑誌初級」第1回を行い、2010年11月7日(日)には「総合目録－図書中級」第1回を実施しました。さらに、2012年11月4日(日)には「情報サービス－文献提供」第1回を実施する予定です。IAAL 認定試験の実施状況は、『IAAL ニュースレター』を通じて、随時、広報してきました²⁹⁾。IAAL 認定試験の実施状況は、【資料3】として章末に掲載しましたので、どうぞご覧ください。

3. IAAL 認定試験問題集の活用方法

IAAL 認定試験は、大学図書館で働く専任職員と非専任職員に、大学図書館業務の実務能力に関する自己研鑽と継続学習の目標・機会を提供することを目的としています。本節では、IAAL 認定試験問題集の活用法について、説明します。

①NACSIS-CAT/ILL を用いた総合目録業務の自己研鑽の教材

この問題集は、IAAL 認定試験「総合目録－図書初級」と「総合目録－雑誌初級」の試験問題（各100題）を収録し、各問題の解説を収録しています。NACSIS-CAT/ILL を用いた総合目録業務を担当する図書館職員は、総合目録に関する実務能力の向上を目指して、自己研鑽の教材として、この問題集を活用することができます。その際、【資料1】に掲載したIAAL 認定試験「総合目録－図書初級」と「総合目録－雑誌初級」の出題枠組みは、総合目録に関する重要項目を列挙したものとして、各自の知識の整理に役立ちます。

②NACSIS-CAT/ILL を用いた総合目録業務の研修教材

IAAL 認定試験「総合目録－図書初級」と「総合目録－雑誌初級」の試験問題（各100題）は、NACSIS-CAT/ILL の実務に即した内容で構成されています。NACSIS-CAT/ILL の担当図書館職員向けの研修等を開催する際に、研修教材として活用すると同時に、研修後の実務能力の測定手段としても活用することができます。さらに、必要に応じて、NACSIS-CAT/ILL を用いた総合目録業務の担当者に、実際のIAAL 認定試験の受験を薦めていただくことによって、担当職員の実務能力を測定することも可能になります。

③IAAL 認定試験の受験対策の教材

IAAL 認定試験「総合目録－図書初級」と「総合目録－雑誌初級」の受験対策として、実際に出題された問題を解くことによって、出題形式、問題の傾向、時間配分、等を把握することができます。

④IAAL 認定試験の受験後の復習教材

IAAL 認定試験「総合目録－図書初級」もしくは「総合目録－雑誌初級」の受験者が、受験後の復習教材としてこの問題集を用いることによって、試験問題の解答を確認したり、出題された問題の理解を深めることができます。

⑤大学図書館職員を目指す学生・社会人の教材

図書館情報学の履修学生や司書資格を取得中の学生・社会人の中で、大学図書館で働くことを強く希望される方は、この問題集を活用することによって、NACSIS-CAT/ILL を用いた総合目録業務に必要な基礎知識を把握することができます。

このように、IAAL 認定試験問題集は、多面的に活用することができます。なお、IAAL 認定試験「総合目録－図書初級」および「総合目録－雑誌初級」では、目録や分類の詳細は出題していません。しかし、目録法や分類法の詳細については、図書館法の「図書館に関する科目」の『情報資源組織論』等の教科書を参照することによって、学習を深めることができます³⁰⁾。

おわりに

これまで、IAAL 認定試験の実施の背景、IAAL 認定試験の設計思想、IAAL 認定試験問

題集の活用方法について、説明してきました。IAAL 認定試験の受験案内は、IAAL の Web ページ、『IAAL ニュースレター』、『図書館雑誌』（日本図書館協会）や『情報の科学と技術』（情報科学技術協会）の広告、等を通じて、随時、広報されていますので、これらの情報をご覧ください。

1980年1月に、学術審議会の答申「今後における学術情報システムの在り方について」が示され、この答申に基づいて、その後の文部省（現、文部科学省）の学術情報政策が推進されました。そして、1986年4月に学術情報センター（NACSIS）が設立され、2000年4月にはNACSISを廃止・転換して、国立情報学研究所（NII）が設置されました³¹⁾。

今日のNIIの目録所在情報サービス（NACSIS-CAT/ILL）は、長年、NACSIS-CAT/ILLに携わられてきたNACSISとNIIの教職員によって開発・整備され、NACSIS-CAT/ILLの書誌データを作成してきた全国の大学図書館職員、等によって支えられてきました。現在、NACSIS-CAT/ILLの書誌データは、NACSIS Webcat（1997年4月1日提供開始-2013年3月終了予定）とその後継のCiNii Books（2011年11月9日提供開始）等を通じて、世界中から検索できるようになっています。学術情報を探索する際に、幅広い利用者が、書誌ユーティリティとしてのNACSIS-CAT/ILLから恩恵を受ける時代になりました。

歴代のNACSISとNIIの教職員の皆様、NACSIS-CAT/ILLの書誌データを作成する大学図書館職員の皆様方の努力の蓄積があったからこそ、IAALは、IAAL認定試験「総合目録-図書初級」および「総合目録-雑誌初級」を設計・開発することができました。各種の認定試験が、社会や関連領域（業界）で一定の評価を得るには、個々の試験が10年程度継続的に実施されることが不可欠であると思います。IAAL認定試験が定着し、一定の評価を得ることができれば、大学図書館における専門職員認定制度の評価ポイントのひとつとして、活用される可能性も高まります³²⁾。

IAAL認定試験が継続的に実施され、社会や関連領域（業界）で評価される認定試験に育つことを、IAAL認定試験の準備段階から実施までの検討に参加した者の一人として、見守って参りたいと思います。

注・引用文献

- 1) 高野真理子. 特集, 図書館の「応援団」: NPO 法人大学図書館支援機構のミッション. 図書館雑誌. 2007. 10, vol. 101, no. 10, p. 682-683.
- 2) “特定非営利活動法人大学図書館支援機構定款.” 特定非営利活動法人大学図書館支援機構. <http://www.iaal.jp/about/teikan.pdf>, 参照は, p. [1].
- 3) IAALの諸活動は、以下の文献で紹介されている。牛崎進. 特集, 図書館業務のアウトソーシング: アウトソーシングと大学図書館論. 情報の科学と技術. 2007. 7, vol. 57, no. 7, p. 320-324. 牛崎進. 大学図書館の新たな発展をめざして: NPO 法人大学図書館支援機構の発足報告 (第9回図書館総合展). 薬学図書館. 2008. 1, vol. 53, no. 1, p. 40-46. 牛崎進. 特集, 大学図書館: 大学図書館をつなぐ新たな試み: NPO 法人「大学図書館支援機構」の活動. Lisn. 2008. 9, no. 137, p. 14-17.
- 4) 竹内比呂也. “第1章 大学図書館の現状と政策.” 変わりゆく大学図書館. 逸村裕, 竹内比呂也編. 東京, 勁草書房, 2005. 7, p. 3-18. 参照は, p. 3-8.

- 5) 日本図書館協会図書館調査事業委員会編, 日本の図書館:統計と名簿, 2011 [年版], 東京, 日本図書館協会, 2012. 2, 517p. 参照は, p. 232-235.
- 6) 佐藤翔, 逸村裕, 大学図書館における外部委託状況の量的調査, Library and Information Science, 2008. 12, no. 60, p. 1-27. 参照は, p. 4-7.
- 7) 野中郁次郎, 紺野登, 知識経営のすすめ:ナレッジマネジメントとその時代, 東京, 筑摩書房, 1999. 12, 238p. (ちくま新書, 225) 参照は, p. 104-115.
- 8) 図書館情報大学生涯学習教育研究センター編, すべての図書館に専門職員の資格制度を:大学, 公共, 専門, 病院図書館と司書養成の現場から, つくば, 図書館情報大学生涯学習教育研究センター, 2002. 8, 62p. 参照は, p. 6-11.
- 9) 葉袋秀樹, 特集, 図書館員の専門性向上と研修:図書館職員の研修と専門職の形成:課題と展望, 図書館雑誌, 2002. 4, vol. 96, no. 4, p. 230-233.
- 10) 上田修一, 根本彰, 「情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究」最終報告書, 日本図書館情報学会誌, 2006. 6, vol. 52, no. 2, p. 101-128.
- 11) 図書館情報学検定試験については, 以下の文献で紹介されている。根本彰, 特集, 図書館情報学教育の行方:今後の図書館員養成と検定試験構想, 図書館雑誌, 2009. 4, vol. 103, no. 4, p. 229-232. 根本彰, 図書館情報学検定試験の実施計画について, 図書館雑誌, 2009. 9, vol. 103, no. 9, p. 640-643. 根本彰, 上田修一, 小田光宏, 永田治樹共著, 図書館情報学検定試験問題集, 東京, 日本図書館協会, 2010. 4, 163p.
- 12) 葉袋秀樹, 「司書の専門的知識の自己評価試験」の提案, 図書館雑誌, 1999. 3, vol. 93, no. 3, p. 221.
- 13) 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会, 学術情報基盤の今後の在り方について:報告, 東京, [文部科学省], 2006. 3, 100p. この報告書は, 文部科学省のホームページで公開(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin_06041015_020.pdf). 参照は, p. 59.
- 14) 大庭一郎, 桑原智美, “国立大学の図書館職員の採用試験問題の分析:国家公務員採用Ⅱ種試験「図書館学」と国立大学法人等職員採用試験「事務系(図書)」を中心に。” 2007年日本図書館情報学会春季研究集会発表要綱, 2007年日本図書館情報学会春季研究集会事務局編, つくば, 日本図書館情報学会, 2007. 3, p. 15-18.
- 15) 道路交通法, <http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S35/S35HO105.html>
- 16) 道路交通法施行規則, <http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S35/S35F03101000060.html>
- 17) 国家公安委員会, 交通の方法に関する教則(平成23年9月12日現在), <http://www.npa.go.jp/koutsuu/kikaku/kyousoku/index.htm>
- 18) 問題の研究:出題傾向の分析:仮免・本免・学科教習別, 東京, 平尾出版, [1990], 128p.
- 19) 長信一, これだけ覚える普通免許問題, 東京, 成美堂出版, 2010. 2, 191p. 参照は, p. 10.
- 20) 長信一, 一発合格!普通免許一問一答問題集, 東京, 高橋書店, 2011. 7, 159p. 参照は, p. 2-3.
- 21) 高野真理子, 大学図書館業務研修のインストラクショナル・デザイン, 大学図書館研究, 2011. 3, no. 91, p. 15-23. 引用は, p. 21.
- 22) 学術情報センター編, 目録情報の基準, 第4版, 東京, 学術情報センター, 1999. 12, 1

- 冊, <http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/MAN/KIJUN/kijun4.html>
- 23) 国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課編. 目録システム利用マニュアル. 第6版, 東京, 国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課, 2011. 11. 1冊, <http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/MAN2/MAN5/CAT6/mokuji.html>
- 24) 国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課 [編]. 目録システムコーディングマニュアル. 東京, 国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課, 2011. 5. 1冊, <http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/MAN2/CM/mokuji.html>
- 25) 国立情報学研究所. 目録システム講習会テキスト 図書編. 平成23年度版, 東京, 国立情報学研究所, iii, 140p., http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/product/cat/text/webuip_menu.html#tosho
- 26) 国立情報学研究所. 目録システム講習会テキスト 雑誌編. 平成23年度版, 東京, 国立情報学研究所, iii, 171p., http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/product/cat/text/webuip_menu.html#zasshi
- 27) NPO 法人大学図書館支援機構. 「IAAL 大学図書館業務実務能力認定試験」について. 図書館雑誌. 2010. 2, vol. 104, no. 2, p. 90-93.
- 28) 前掲21) p. 22.
- 29) “IAAL ニュースレター.” 特定非営利活動法人大学図書館支援機構. <http://www.iaal.jp/newsletter/newsletter.html> IAAL 認定試験の概要は, no. 3, p. 1-6 (2009. 5), no. 4, p. 10-11 (2009. 10), no. 5, p. 2-7 (2010. 3), no. 6, p. 2-5 (2010. 7), no. 7, p. 2-5 (2010. 10), no. 8, p. 2-7, 10-11 (2011. 3), no. 9, p. 6-10 (2011. 10), に記されている。
- 30) 一例として, 次の文献が挙げられる. 田窪直規編. 情報資源組織論. 東京, 樹村房, 2011. 4, xii, 209p. (現代図書館情報学シリーズ, 9)
- 31) 宮澤彰. 図書館ネットワーク: 書誌ユーティリティの世界. 東京, 丸善, 2002. 3, vi, 193 p. (情報学シリーズ, 5) 参照は, p. 45-51.
- 32) 片山俊治. 特集, 大学図書館2009: 大学図書館における専門職員認定制度の可能性: 国立大学図書館協会中国四国地区協会「図書・学術情報系専門員資格認定制度」をモデルとして. 図書館雑誌. 2009. 11, vol. 103, no. 11, p. 750-755.

(URL 最終確認: 2012年3月19日)

(おおばいちろう: 筑波大学図書館情報メディア系)